

1 単元名 したい! なりたい! 伝えたい! - Hi, friends 'want' 表現 -

2 本単元の価値

本単元は、主に学習指導要領「外国語活動」の以下の指導内容に基づくものである。

- 2 内容
- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
 - 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

子どもたちは、これまでに Hi, friends 1・2の単元を通して、「like」「study」「go」「turn」などの動詞や「what」「when」「how」「who」などの疑問詞、「would」「can」などの助動詞を使った基本的な英語表現を身に付けてきている。また、本研究の授業構造である、課題をもち、その解決のために、繰り返し外国人とコミュニケーションを図る活動を複数回経験している。そのため、ALTをはじめとする外国人と英語でやり取りすることにも慣れてきている。本単元は、1年間の外国語活動の経験を生かし、子どもが自分の伝えたい想いを自分の言葉(英語)で、外国人に表現することで、英語を自己表現の手段の1つとしてとらえることをねらいとした。

本単元の価値は、以下の3点である。

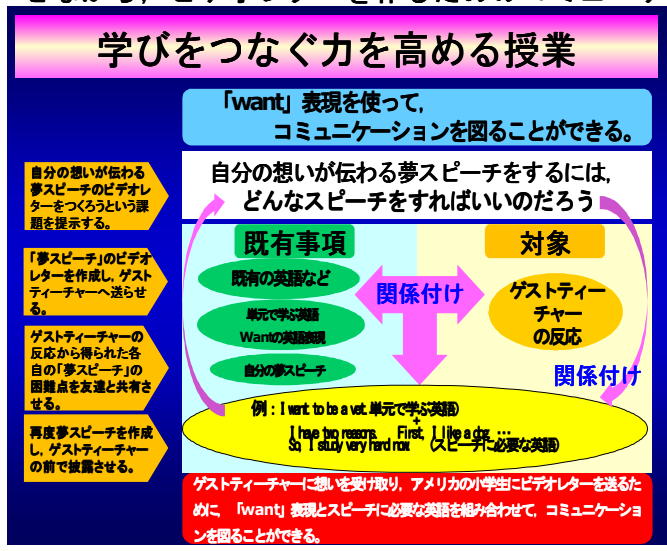
一つ目は、新しい英語表現「I want to be」を使った英語を身に付けることである。動詞「want」は、自分の想いを表現する基本的な英語表現である。本単元では、「want」を使いながら自分の夢を語る活動を通して、「I want to be」という新しい基本的な英語表現を身に付けることができるようになる。

二つ目は、英語を使うことで、自分の想いを発信できる世界が広がることを実感することである。本単元では、身近な外国人を通して、自分の想いを海外へ発信する活動をする。言語も文化も違う、しかも同世代の子どもへ発信する経験は、英語が自分の世界を広げる手段となり得ることを現実的に体感することができる。

三つ目は、1年間の学習の成果を実感できることである。本研究は、教科化を視野に入れた外国語活動として、基本的な英語表現を身に付けさせることを意識してきた。そのため、既習の英語表現を各 Lesson で積極的に使わせている。本単元は、今まで経験してきたことを総動員して自分の想いを伝える活動として位置付け、子どもたちが今まで学習してきたことを発揮し、その有用性を実感できるようにする。

3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

本単元における学びをつなぐ力を高めた姿とは、**ゲストティーチャーの想いを受け止め、自分の夢や想いを海外の小学生に発信するために、「want」の表現を基に既有的英語などを組み合わせながら、ビデオレターを作るためのコミュニケーションを図る子ども**である。この姿は、自分の夢や想いを語る夢スピーチをつくるために、ゲストティーチャーとコミュニケーションを図りながら、改善している姿で評価する。



子どもは、ゲストティーチャーの反応から、「I want to be」の表現を基に、どのような英語を組み合わせるとよいか考えることで、より実用的な英語を使い方を体験する。なお、本研究における「中核的な知識や技能」、「対象」、学びをつなぐ力、考え方の自覚を次のように設定する。

- ① 「中核的な知識や技能」
初歩的な英語運用能力 (I want to be を実用的な場面で使える力)
- ② 「対象」
ゲストティーチャーの反応

③ 学びをつなぐ力

ゲストティーチャーの反応を基に、関係付けるすべを用いて、自分の「夢スピーチ」(I want to be の表現)を振り返り、既存の英語などを組み合わせて、よりよい「夢スピーチ」をつくる力

④ 考え方の自覚

外国人の反応を基に、「I want to be」表現に、理由などの英語(既存の英語)を組み合わせていけば、よりよい「夢スピーチ」ができるという自覚

4 指導計画 全6時間(180)

※詳細は別紙「単元カード」参照

5 指導の構想

本単元は、「I want to be」などの英語表現を使って、自分の夢を表現する学習である。しかし、自分を知っている人に英語で夢を表現する中では、自分の想いを表現する意欲を高めることは難しい。また、より自分の想いを伝えるために、「I want to be」を基に、既存の英語を総動員して組み合わせながら、表現するまでには至らない。そこで、ゲストティーチャーの祖国の子どもたちに日本の子どもたちの夢を紹介したいという強い想いに触れさせる。そうすることで、子どもの意欲を喚起し、自分を知らない未知の外国人にビデオレターを送るという課題から、より詳しく、より分かりやすく伝えようとする姿をねらい、以下のように働き掛ける。

働き掛け1

ゲストティーチャーの想いを知り、自分の想いが伝わる「夢スピーチ」のビデオレターをつくろうという課題を提示する。

子どもは、未知の外国人に「夢スピーチ」のビデオレターを送るためには、どうしたらよいか問いをもつ。そして、自分の夢を英語で語るために既存の英語からスピーチを考えようとする。しかし、夢を語る英語表現(I want to be)の言い方が分からず、どのような英語なのか知りたくなる。そのため、夢を語る英語表現(I want to be)を提示し、慣れ親しませる。すると、子どもは夢を語る英語表現を基に、自分の「夢スピーチ」を考えることができるようになる。

働き掛け2(1・2日目)

「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーに披露させる。

子どもは、それぞれでつくった自分の「夢スピーチ」をビデオ撮影しながら練習し、ゲストティーチャーに披露する。すると、ゲストティーチャーから、もう少しこうして教えてほしいといったお願いのメッセージが返ってくる。子どもは、ゲストティーチャーの反応から、自分の「夢スピーチ」にさらに何かが必要なことに気付く。そして、より自分の想いが伝わる「夢スピーチ」は、どのようなものなのか困難点に遭遇する。

働き掛け3(1・2日目)

ゲストティーチャーの反応から得られた「夢スピーチ」の困難点を友達と共有させ、解決策を考えさせる。

子どもは、ゲストティーチャーの反応から自分のスピーチをタブレット端末などで振り返り、それぞれの「夢スピーチ」の困難点について、話し合うようになる。そこで、共通点をまとめていくことで、子どもはゲストティーチャーの反応を基に**関係付けるすべ**を用いて、「I want to be」の英語表現に説明や補足などを加えるための英語が必要であることに気付き、既存の英語などを組み合わせて解決策を考える。そして、自分の「夢スピーチ」を見直し、より想いが伝わり、自分を知らない外国人にも分かる「夢スピーチ」を組み立てていく。

働き掛け4(1・2日目)

再度、「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーの前で披露させる。

子どもは、作り直した「夢スピーチ」を基に、ゲストティーチャーの前で再び披露する。そして、ゲストティーチャーが、その場で感想を述べていく。そうすることで、子どもは、ゲストティーチャーの反応を基に、自分の「夢スピーチ」を再度見直す。このようなゲストティーチャーの前での披露と「夢スピーチ」の見直しを繰り返し行っていくことで、子どもはより自分の想いが伝わり、分かりやすい「夢スピーチ」になっていくことに気付く。そして、ゲストティーチャーに喜んでもらい、自分なりの「夢スピーチ」が完成することで、**関係付けるすべ**を用いて自分の想いが伝わり分かりやすい「夢スピーチ」になったことと、そのために「I want to be」を基にした夢を語る英語表現とをつなぎ、目指す子どもの姿になる。

※働き掛け3と働き掛け4は、繰り返す。

そして、どのような英語を組み合わせたことで、自分の想いが伝わり、分かりやすい「夢スピーチ」になったのかを振り返らせ、「I want to be」の表現に夢を語るための英語表現を組み合わせるよさに気付かせる。

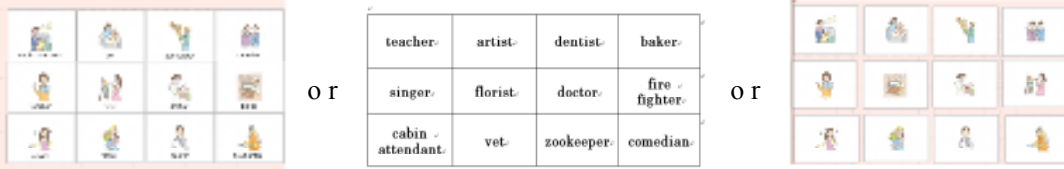
自分の「夢スピーチ」に自信をもった子どもは、実際にアメリカに送るためのビデオレターをつくるため、それぞれのスピーチを撮影する。そして、ゲストティーチャーに送ることで、感謝の言葉をもらい、課題が達成されたことを実感するようになる。

6 本時の構想<第1日目> 4/6時間(45分授業)

(1) ねらい

ゲストティーチャーの反応から得られた困難点を基に、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現により夢の理由が伝わる英語を加えることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師(HRT) の働き掛け	ゲストティーチャー(GT) の働き掛け												
<p>0 ウォーミングアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello! Miss Carly. • I'm OK, and you? • Hello! Tomo teacher. • I'm good, and you? • doctor • a vet • a teacher • an artist 	<p>○指示「Everyone, stand up.」</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello! How are you? • I'm fine, thank you. <p>○指示「Let's play together!」 ※ポインティングゲームのアレンジ版で、活動する。</p> <p>• Please listen carefully. Which is a doctor? Point to a doctor. Three two one zero, then, repeat after me, please. 'a doctor' ※テンポよく、友達のなりたい職業の言い方をクイズ形式で慣れさせます。</p> <p>OR</p> <table border="1" data-bbox="710 862 1045 1019"> <tr> <td>teacher</td> <td>artist</td> <td>dentist</td> <td>baker</td> </tr> <tr> <td>singer</td> <td>florist</td> <td>doctor</td> <td>fire-fighter</td> </tr> <tr> <td>cabin-attendant</td> <td>vet</td> <td>zookeeper</td> <td>comedian</td> </tr> </table>	teacher	artist	dentist	baker	singer	florist	doctor	fire-fighter	cabin-attendant	vet	zookeeper	comedian	<p>○指示「Let's say hello!」</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello, everyone! • How are you? • I'm good, thank you. <p>※HRTと交互または一緒に参加する。</p>
teacher	artist	dentist	baker											
singer	florist	doctor	fire-fighter											
cabin-attendant	vet	zookeeper	comedian											
<p>※提示教材は、実態に応じて意図的に教師が選択する</p>														
<p>「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーに披露させる。【働き掛け2】</p>														
<p>1 「夢スピーチ」の準備をする。</p> <p>※4人班で準備する。 (班は、子どもの英語経験の似た者同士で編成し、学年・性別は均等にする)</p> <p>「夢スピーチ」例</p> <p>Hi! My name is Taro. I'm 11 years old. I have a dog. I want to be a doctor. Because, I help many people. And, my father is a doctor. I like my father. So, I want to be a doctor. Thank you.</p> <p>2 「夢スピーチ」をCarlyさんに披露する。</p> <p>「夢スピーチ」例</p> <p>Hi! My name is Taro. I'm 11 years old. I have a dog. I want to be a doctor. Because, I help many people. And, my father is a doctor. I like my father. So, I want to be a doctor. Thank you.</p>	<p>○説明 「今日は、みなさんが考えた『夢スピーチ』をCarlyさんに披露します。」</p> <p>○指示 「Let's practice your 'Dream Speech' in each group.」 【働き掛け2】</p> <p>○指示 「Let's show 'Dream Speech' to Miss Carly!」 【働き掛け2】</p> <p>※各班にタブレット端末を配付する。 ※HRTは、班を回りながらスピーチやGTの英語の通訳のサポートをする。</p>	<p>※班で練習している様子を巡視しながら確認し、大体的内容を把握しておく。</p> <p>※各グループでスピーチを聞き、感想を述べる。</p> <p>GTの反応</p> <p>It's nice dream. A doctor. It's difficult to be a doctor. I think you can become a doctor. You study very hard. I have some advice. I think 'becasuse' is not good... 'reason' is better. ポイントとなる反応 ・理由の説明の仕方</p>												

ゲストティーチャーの反応から得られた「夢スピーチ」の困難点を友達と共有させ
解決策を考えさせる。 【働き掛け3】

3 Carlyさんの反応を推測しながら、困難点を友達と共有し、解決策を考える。

- 感想を話す。
 - ・いいね。って言ってくれたよ。
 - ・Cool ってかっこいいだね。
 - ・そう言ってくれた。
 - ・Carlyさんも先生になりたいんだって。
- 困難点を共有する。
 - ・う～ん。まだ、ダメだと思う。
 - ・理由はね、Becauseは使わないんだって。
 - ・どうすればいいかな。
 - ・reason? って言ってた。なんだろう。
- 解決策を考える。
 - ・reasonって理由って意味だよ。ね。Carlyさん、I have two reasons.っていった。だから、最初に理由は2つあるって説明した方がいいんだね。
 - ・そうすると、理由はFirstやSecondで説明するといい。

☆上記の.....のような解決策に気付く子どもが関係付けるすべを用いた子どもである。

○発問「『夢スピーチ』を伝えたら、Carlyさんは、どんな反応でしたか」 【働き掛け3】

- ※班・学級全体で考えさせる。
- ※良い点、褒められた点を共有する。
- ※困難点を共有させる。
- ※困難点を焦点化させる。
- ※G Tの英語でポイントとなる英語は訳す。

○発問「『夢スピーチ』に理由を伝えるためには、どうしたらいいですか」 【働き掛け3】

※子どもの反応に応じて、スピーチの感想(反応)を繰り返し英語で説明する。

※'reason'など、子どもが分からない英語は、繰り返し説明していく。

再度、「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーの前で披露させる 【働き掛け4】

4 解決策を基に、自分の「夢スピーチ」を直し、G Tに披露する。

「夢スピーチ」例
Hello! My name is Taro.
I'm 11years old. I have a dog.
I want to be a doctor.
I have two reasons.
First, I help many people.
Second, My father is a doctor.
And, I like my father.
So, I want to be a doctor.
Thank you!

※必要に応じてタブレット端末で録画する。

☆上記の.....のような英語を加えた子どもが関係付けるすべを用いた子どもである。

○指示「『夢スピーチ』をつくり直してみよう」 【働き掛け4】

- ※つくり直しは、各自のものを班で相談しながら進めさせる。
- ※適宜、G Tに披露させながらつくり直させる。
- ※動詞や名詞で分からない英語があった場合は、H R TやG Tが教える。
- ※文法的に難しくなるようであれば、簡単な文で説明させる。

※積極的に子どもの班の中に入り、支援する。

つくり直すための反応
・ Oh, It's good. but, One reason? Do you have another reason?
・ two reason? two reasons

次時につながる反応
It's a good speech.
By the way,
What do you do for your dream?

7 評価

※「英語教育の在り方に関する有識者会議」(資料) 2014. 9.26に基づき、次の視点で評価する。

【目標】

- (1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

【技能 SP1】 Spoken Production1

自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら初歩的な英語で伝えることができるようにする。

・ゲストティーチャーの反応から得られた困難点を基に、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現に.....のような説明や変更が必要なことに気付くことができる。 【目標(1)】

・ゲストティーチャーの反応を基に、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現に.....のような、より理由が伝わる英語を加えて話すことができる。 【目標(2)】【技能 SP1】

